

<ヒロシマへ ヒロシマから> 通信 No.1729 2022/10/2(日)

天光 平城 鹿野 幸規 2022年(令和4年) 9月30日

「日中不再戦」
辺野古で訴え
市民団体が横断幕

【辺野古問題取材班】
名護市辺野古の米軍キャンプ・シユワブゲート前で29日、ヘリ基地反対協議会が「日中友好・不再戦」の横断幕を掲げ、新基地建設反対を訴えた。写真。弁護士として中国人強制連行補償裁判に取り組んだ内田雅敏さんも参加した。参加者らは「日米中の指導者は危機をあおらず、戦争をしないよう話し合うべきだ」と



と声を上げた。約60人の市民が座り込みによる抗議活動に参加した。内田さんはゲート前のテントで「二つの中

「日中友好・不再戦」の横断幕を掲げて座り込む市民ら。29日正午過ぎ、名護市の米軍キャンプ・シユワブのゲート前

2カ月に1回、東京から座り込みに参加している弁護士の内田雅敏さん(77)は、日中には共同声明をはじめとした四つの基本文書があることを紹介。互いに

軍事的な覇権国家にならないことがうたわれているし、「先人たちが作ったこの平和資源で絶対に戦争をしない」という誓いを実行していこう」と呼びかけた。

ヘリ基地反対協議会の浦島悦子さん(74)は「誰にも戦争を望んでいない。日中両国の関係が険悪な今だからこそ、民間交流の重要性を発信することが大切だ」と述べた。

那覇市から参加した新本勝子さん(77)は「軍国主義に向かうのではなく、日中双方が友好や平和のために努力してほしい」と願った。

(松堂秀樹)



辺野古 2022-9-29



2022-10-1



辺野古ゲート前
日中友好訴える
国交正常化50年で

【名護】日中国交正常化から50年となる29日、名護

市辺野古の米軍キャンプ・シユワブ前では、新基地建設に反対してゲート前に座り込んだ市民が「日中友好・不再戦」の横断幕を掲げ、諸外国との友好や平和的な外交を訴えた。

2カ月に1回、東京から座り込みに参加している弁護士の内田雅敏さん(77)は、日中には共同声明をはじめとした四つの基本文書があることを紹介。互いに

紙面編集・友利仁

軍事的な覇権国家にならないことがうたわれているし、「先人たちが作ったこの平和資源で絶対に戦争をしない」という誓いを実行していこう」と呼びかけた。

ヘリ基地反対協議会の浦島悦子さん(74)は「どこの国とも友好な関係を保ち、攻めてくることはないように努めるべきだが、政治が役割を果たしていない。政府同士がよい関係でない時ほど、民間から声を上げていく必要がある」と語った。

政治プレミア

「佐渡おけさ」をもう一度 日中が「敵対的な相互依存」から抜け出すには

内田雅敏・弁護士
2022年9月29日



日中共同声明調印後、上海に向かう田中角栄首相(当時)ら政府代表団を空港で見送る子供たち。中国北京の北京空港で1972年9月29日、同行特派員団撮影

日中が国交正常化した50年前には、保守の政治家にも先の大戦で日本が中国を侵略したことについての申し訳なさがああり、また中国の文化への敬意もあった。50年前にお互いが何を約束したのか、そこに立ち返る必要がある。

1972年の日中共同声明は「日本側は、過去において日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省」とした。そのうえで、お互いに覇権国家とならないとし、台湾問題については、日本は台湾が中国の一部であるとする中国側の見解を尊重するとした。尖閣諸島の帰属については棚上げした。

その後も両国はこの姿勢を繰り返し確認してきた。2007年の温家宝首相(当時)の国会演説では尖閣諸島問題について「両国は係争を棚上げし、共同開発をする原則にのっとり(中略)平和・友好・強力の海にすべきです」と述べている。

上の沖縄の2つの新聞記事と「政治プレミア 「佐渡おけさ」をもう一度 日中が「敵対的な相互依存」から抜け出すには」の論考は、弁護士の内田雅敏さんから届いたものです。政治プレミアは冒頭の一部のみの掲載ですので、全文は↓↓でぜひお読みください。

→「佐渡おけさ」をもう一度 日中が「敵対的な相互依存」から抜け出すには | 内田雅敏 | 毎日新聞「政治プレミア」(mainichi.jp)